

H 2 9 年 4 月



桜の咲く頃はまだ肌寒く、春の訪れに心ワクワクしながらも、体調には気を付けたいものですね。

4月13日、近くの公園にお花見に外出しました。満開の桜がハラハラと私たちの体に舞い降りてきました。きれい～！幸せな気分！！お昼ご飯を広げ、さあ食べましょう！！食べるって幸せですよ。それも美しい景色の下で・・・。

ふと、ある和歌が思い浮かびました。

「願はくは 花の下に 春死なん その如月の 望月のころ」

「花」は平安期以降、桜を指すようになりました。

作者の西行は、この歌のとおり、実際に桜の咲く満月のある美しい風景の頃に亡くなったという事です。

桜は西行の歌を経て、日本人の心と強く結びつくものとなっていったようです。